

## 第9回 まち・ひと・しごと創生推進懇話会会議録（書面開催）

1 日にち 令和3年7月27日集約（令和3年5月31日発送）

2 委員

梶川（武雄商工会議所）、久保（武雄市商工会）、前田（武雄青年会議所）、  
下平（佐賀県農業協同組合）、江口（武雄市観光協会）、五十嵐（佐賀大学）、  
木下（武雄金融協会）、武富（連合佐賀）、小杉（ケーブルワン）、川原（区長会）、  
永松（市民団体）、江越（眉山の森保全の会）、庭木（女性ネットワーク）、  
土井（司法書士）、古澤（武雄公共職業安定所）、佐々木（佐賀県さが創生推進課）、  
北川（武雄市副市長）

3 委員からの意見

（1） 仕事を創出し、所得を上げる。

### 具体的施策（1）企業誘致の積極的な推進

- ・オフィス立地支援を加えた点が評価される。オフィス立地支援はサテライトオフィスの誘致から進めるべきかと考える。（佐大：五十嵐）
- ・新工業団地に今後どのような企業が進出するのか気になるが、通勤等の利便性を考えると躊躇するところがある。（区長会：安藤）
- ・企業の経営者や実権者の高齢化が進むことは懸念事項であり、スムーズな事業継承やM&Aは、地域の職員の皆さんやその家族の安定した生活を守る為にも課題である。西九州新幹線開業やスポーツ施設の新築、観光資源（温泉、御船山楽園、大楠等）を効果的に利用し、観光客やインバウンドの集客につなげ、新たにスポーツからの人流をつくり、魅力的な都市への発展の可能性は大いに期待できる。（金融：坂井）
- ・コロナ禍で経済活動が停滞する中での企業誘致や農林業の振興は非常に厳しいと理解する。（連合：武富）
- ・若者が地元に戻ってくるため、企業を誘致し、武雄市に雇用の受け皿整備に取り組むことは、望ましいことではあるが、通勤圏は、1時間であれば県内かなりのエリアが通勤可能であるため、「雇用の質の高い魅力ある企業誘致」をオール佐賀で魅力ある企業の誘致を望みたい。（農協：山口）
- ・この1年でテレワーク、在宅、ワーケーションなど企業の在り方は激変。地方分散の流れをつかみ、今後の誘致、定住、移住の具体的事業にすみやかに反映させてほしい。（観光：江口）

### 具体的施策（2）中小企業支援、起業・創業等支援

- ・着実に進んでいる点は評価される。（佐大：五十嵐）
- ・創造支援事業の相談件数、創業件数が共に H30 年度より伸びていることは喜ばしいことである。今後の with コロナの時代に沿った新しい事業も必然的に増えてくると思うので、今後の積極的な支援展開をお願いしたい。（連合：武富）

### 具体的施策（３）就労支援、人材の確保・育成

- ・テレワークの支援など女性の就労支援の強化が求められる。（佐大：五十嵐）
- ・小中高校生向けの市内での就業の為のセミナーや体験学習をする場を与え、将来的に地元に残る子供達を育てる取り組みが必要ではないか（女性ネ：庭木）
- ・若者は、故郷志向で地元に戻りたいばかりではなく、「住みやすい魅力あるまち」ならば、若者のみならずとも、定住を武雄市に求めてくること考える。（農協：山口）

### 具体的施策（４）魅力ある農林業の振興

- ・新規就農支援のための先進的農業経営者の活用によるアドバイザー制度等の充実が求められる。（佐大：五十嵐）
- ・耕作放棄田畑についての取り組みが必要ではないか（女性ネ：庭木）
- ・IT等を用いた魅力ある農業の開発で若者の新規就農者を生み出す（女性ネ：庭木）
- ・平地の農業はメドが立つが、中山間の農業をどうするのか。榊、椿、小木果樹（ブルーベリー等）の植栽による長期的な活動（区長会：安藤）
- ・魅力ある農林業の振興について、トレーニングファームの設立後、県内外からの入校もあり、併せて、きゅうりハウス団地施設構想もなされいていることから、就業誘致と捉え、今後も情報発信含めバックアップをお願いしたい。また、農業者担ぎ手が減少の一途となっており、雇用型経営体の推進についても、仕事の創出と捉えて推進支援をお願いしたい。（農協：山口）

## （２） 最高の子育て・教育環境をつくる。

### 具体的施策（１）子育て・家庭支援

- ・総じて、KPIを順調に達成しつつあり、評価される。（佐大：五十嵐）
- ・DVや子供虐待等が増加傾向にある今、年に1回ずつでも結婚する（又はした）カップルに向け家庭とは結婚とは子育てのノウハウ、嫁や姑（男も同じ）の在り方等の研修（女性ネ：庭木）
- ・子育てや家庭支援について多くの事業があり、結婚、出産、子育てを考えている方には大変ありがたい事業だと思う（あくまで子育てを考えている方のみ）。（区長会：安藤）
- ・武雄市は佐賀県の中心に位置し、県内主要地域へほぼ1時間圏内でアクセス可能で、起業や各教育機関も武雄支店や支所を所有。スポーツを活かした人間形成やひとり親支援策も充実しており、このまま制度充実を図っていただきたい。（金融：坂井）
- ・産後うつ病のリスクの高い母親の割合について、アンケート回収時期の変更によって数値が高くなったことは理解する。うつ病のリスクの高い母親への助産師の訪問対応など、迅速かつ適切な専門機関への橋渡しを今後もお願いしたい。また、うつ病のリスクの高い母親の割合のR6年度目標値が「0%」となっているが、現実的には無理ではないかと考える。むしろ、アンケート回答時にうつ病リスクが高かった母親が、その後の対応により、リスク軽減された数値化ができればよい（連合：武富）

- ・家庭児童相談件数の相談は、どんどんしてもらったほうがよいと考える。また、放課後児童クラブを利用した保護者の満足度はかなり高い。安心して相談できる環境づくりは大切なので、方向性としてよいと思う。行政だけではなく、家庭や学校、起業、地域などが連携し支え育てていくという要素がとても大切だと感じた。(ケ：小杉)
- ・「福岡長崎等通勤通学補助事業」は、新幹線通勤を視野にいれてよいかもしれません。住むのは武雄市！となるように(ケ：小杉)
- ・子育て・教育環境は、「住みやすい魅力あるまち」に直結し、定住を決める大きな要素である。子育て支援事業についても、いろんな事業が仕組まれており、事業の活用価値も高いことから、子育て・教育環境事業の要望立案や事業の充実が「最高の子育て・教育環境をつくる」満足度につながっていく。(農協：山口)
- ・産後うつの早期発見について、助産師会との連携でさらに良くなると思います。知人の例ですが、産後直ぐから里帰り出産をしたものの、戻ってくるタイミングで軽いうつ症状となり、結果、実家で1年近く過ごされました。コロナ禍でもあるので、小さなコミュニティで友人をつくることも大切かと思うので、オンラインで月齢に応じた場を持つなども、可能になるのではと思う。外出しにくい時期、誰とも話さずに1日が終わるママはとて多いと思うので。(TEN：中村)

## 具体的施策（2）子どもが主人公の教育環境の整備

- ・コロナ禍での地域行事参加は、子どもに限らず多世代に共通することでもあり、やむを得ないものと判断する。(佐大：五十嵐)
- ・教育環境について、小学校の授業を受ける環境はあまりいい状態とはいえない。教室は手狭であり、廊下等には教科書、その他の荷物であふれている。管理棟、教室棟、その他に活用できるような教室の使用法の検討が必要である。(区長会：安藤)
- ・コロナ禍の中学校行事が再開されているが、毎年同じようなことではなく内容の見直しを検討してもよいのではないかと(区長会：安藤)
- ・子どもの学習意欲向上度について、R2年度はコロナ禍で学校行事などが行われないうち、意欲度が減少しなかったことは評価してよい。学習用端末の活用やオンライン授業の実施などで、教員が多忙化していると思うので、負担軽減に向けた環境整備も進めて欲しい。(連合：武富)

## (3) 生きがいと健康を実感できるまちをつくる

### 具体的施策（1）生きがいづくりの推進

- ・「学び」の生きがいづくりや、地域助け合い活動への参加など、社会貢献型の講座を増やすことで、新たな生きがいづくりにつながるのではないかと考える。(佐大：五十嵐)
- ・何を生きがいと感じるかはそれぞれであるが、高齢者だけではなく子供の頃から武雄市に住んでいることで祖父母世代、親世代がどんなことに参加し活動しているのか

- 一緒に学ぶ機会を設けることで今後の参考にもなるのではないか。(区長会：安藤)
- ・生きがいつくりの推進において、成人対象講座参加者数が減っているのはこのコロナ禍では止むを得ないと思う。一方で、高齢者大学についてはあまり参加者が減っていないことから、高齢者の受け皿をいかに確保するのが課題であり、コロナ禍であっても感染対策をしっかりと講じて参加しやすい環境を整備することが大事である。(連合：武富)
  - ・生活困窮者自立支援新規対応件数は増加傾向にあるが、今後もコロナ禍の影響で増えることが予想される。生活困窮の要因は、人によってそれぞれだと思うので、様々なケースに対応できる支援体制の整備が必要である。(連合：武富)
  - ・高齢者大学参加者数は上限があり、受講したくてもできない人がいると聞きました。今年は募集の方法を変えて工夫されたようですが、改善できたのか検証が必要です。同じ人ばかり受講して、新たに学びたい人が学べないのはもったいない(ケ：小杉)

### 具体的施策（２）健康づくりの推進

- ・生きがいつくり推進事業と連携を強化することも必要かと思われる。(佐大：五十嵐)
- ・毎年の検診の際に、集団検診等でもよいが、設備が整った検診センターで受診し何回も予約を取らなくても 1 日で検診が終了するような施設の検討も必要ではないか。(区長会：安藤)
- ・武雄市には高度な医療施設を備えた病院や優秀なドクターがいるクリニックが多数存在し、旅館やホテルとタッグを組んだ医療旅行（他府県からの療養患者を取り込む）を企画して地域活性化を検討する等、議論する機会をぜひ増やしていただきたい。(金融：坂井)
- ・週 3 回以上朝食を抜く人の数は H25 年度 6.7%、H30 年度 10.9%と増えている。保健指導対象者に対して、説明会や訪問による指導をされているようですが、改善が見られない新たに具体的施策を打ち出してはどうか？ベジファーストの時のように、市全体で取り組みを強化すれば改善につながるかもしれません。(ケ：小杉)

### 具体的施策（３）介護・高齢者福祉の推進

- ・総じて KPI の進捗度が高い点は評価される。(佐大：五十嵐)
- ・コロナ禍により、特に高齢者の孤立化が進んでいるように感じる。コミュニティによる「居場所」づくり「出番」づくりの機会を増やすことこそが、高齢者の生きがいと健康づくりと考える。(農協：山口)

### 具体的施策（４）障がい福祉の推進

- ・KPI の進捗度が高い点は評価される。(佐大：五十嵐)

### その他

- ・DV や子供、老人、障がい者等への虐待、心の病や人権侵害等への相談事業の推進を図る。具体的施策（5）を新たに設定し「相談事業の推進」（女性ネ：庭木）

#### （4）人と人との交流が生まれ、心がつながるまちをつくる

##### 具体的施策（1）国内・海外誘客の促進

- ・コロナ禍で取り組んだ県内（近在）の観光需要の掘り起こしは、コロナ後においても継続して実施することが望まれる。（佐大：五十嵐）
- ・駅前広場や高架下等の活用でここは武雄温泉ですとイメージ付けるものを事業として挙げて欲しい。（例：足湯、手湯、湯けむり）（女性ネ：庭木）
- ・武雄を担う若者、子供へ武雄の歴史や先人の偉業を常時身近に学べる歴史、資料の常設があると武雄に誇りをもつ（女性ネ：庭木）
- ・JR の高架下にアーティスト村をつくったらどうか。個性的な店に出店していただくことで同じくらいの広さで統一感ができ、空き店舗の解消ができ、ひとが集まるのではないかと。定期的な出店での集客も必要ではあるが、そういったところは期間限定のような特別感があり今しか購入できない、体験できないようなことにより交流するスペースもあっていいと思う。駐車スペースも必要であり立体駐車場をつくる必要もあると思う。（区長会：安藤）
- ・全般的に、新型コロナウイルスの影響で事業の推進が難しかったと思う。指標の交流人口の増加に向けた取り組みは、ワクチン接種が定着し、私たちの生活が以前の日常にある程度戻らないと推進計画通りには進まないと思う。今後しばらくはwith コロナの生活様式となることから、R6年度の最終目標について改めて精査をする必要があるのではないだろうか。（連合：武富）
- ・二次交通の充実が誘客の促進、満足度にもつながる大切な要素。観光地への誘導もスムーズに行くように、いくつか具体的なプランを用意しておき、二次交通により回ってもらうとよいと思う。ほんわかカーは市民の足であると思いますが、例えば駅からコミュニティバスのようなものが、観光地を巡るプランに併せてある程度定期的に出ていれば、駅についてから一通り無駄なく回ってもらえる。「自然満喫プラン」「歴史遺構めぐり」「グルメプラン」などももちろん行った先で「おもてなし」があれば最高です。プランに沿って廻った方には特典をつけるると更にリピーターに繋がる。（ケ：小杉）
- ・コロナ禍にあって、観光支援事業を始め、高架下活用社会実験の実施など、積極的になされたと思います。さらなる観光戦略を期待します。（司法：土井）
- ・「観光消費額」「誘客数」はR2年度の数値を出すのが望ましい。入湯税申告など市で把握できるものは担当課をこえて活用（観光：江口）

##### 具体的施策（2）効果的な情報の発信

- ・web 閲覧件数については、新型コロナウイルス関連ページを設置したことで、市民の

閲覧数が大きく伸びている。情報を得るツールとしての web は今後も重要性を増すので、さらなる充実を図ってほしい。同時に、情報弱者とも言われる高齢層への web 活用の啓発や環境支援にも力を入れること。(連合：武富)

- HP の「お住もう部屋」がいつのまにか「武雄市移住支援サイトたけおグッドライフ」に変わっています。少し待てば上部に出てきますがわかりにくいので、常時表示させた方がよいのでは？「子育てするならたけお」は目立っています。たけおグッドライフの中味は充実しているので、移住を考えている人がアクセスしやすいようにしてほしい。(ケ：小杉)
- 分析のとおり数値目標は達成されているが、「武雄ブランド」事業の取組が見えない。(観光：江口)

### 具体的施策（3）文化・スポーツの振興

- コロナ禍での止むを得ない状況であると判断するが、文化振興では、web 版のデジタル・ミュージアム（仮想現実鑑賞等を含む）を拡充するなどの取り組みも必要ではないか。(佐大：五十嵐)
- 佐賀県内の高校は、歴史も長く、部活動も活発化している。その OB 会も多数存在しており、周年記念も検討中にあるとも聞いており、スポーツと融合した交流を期待いたします。(金融：坂井)
- 合併 10 周年事業として行われたリレーマラソンのようなイベントを、飲食店や温泉施設（観光）とリンクさせる形で実施できたら良いと思う。(司法：土井)
- 武雄市のスポーツ・文化施設は老朽化し、人の集まるスポーツ・文化施設ではないが、施設整備により、人の集まる大会・合宿の誘致が実現するとすれば、人と人の交流が生まれるものとする。国内・海外誘客促進事業について、「スポーツ・文化」と「温泉」とも相まって魅力ある観光事業になることを期待したい。(農協：山口)

## （5）災害に強く、安心して心豊かに暮らす環境をつくる

### 具体的施策（1）災害に強いまちづくり

- レジリエンス強化の観点から、地域コミュニティの活性化によるコミュニティ・レジリエンスの強化という点で、自主防災組織のあり方について検討する必要があるのではないか。(佐大：五十嵐)
- 小規模開発の中止。水路等基本計画をたててからのまちづくり。現在は水の流れを悪くするものばかりが来ているように感じる。(区長会：安藤)
- 国、県、市道の高さが違うため、水害時に何時間も水がたまり続け国県道に出ることができなかった。(区長会：安藤)
- 金融機関として、住宅に関するローンや積立金の支援で住宅保有率の向上と災害に強い住宅改築支援を行っていききたい。(金融：坂井)
- 自主防災訓練実施団体が 30 団体と基準値の 10 団体を大きく上回っていることから、

住民の防災意識が非常に高いことがわかる。佐賀豪雨で得た教訓を今後の防災・減災活動に活かせるよう、コロナ禍で調整が難しいと思うがさらなる防災訓練強化の取り組みを進めて欲しい。(連合：武富)

- ・避難行動要支援者個別計画策定については、名簿登録者の同意を得ることが非常に難しいことは理解するが、個別計画策定の意義を根気強く説明していき、計画策定率の向上を図ってほしい。また、そのための人員増も必要ではないか。(連合：武富)
- ・地域住民の自治会活動等への積極的な参加を促進で、婦人会や老人会の現状が気になる。防災を考える際には、地域内の日頃からのつながりが大事(ケ：小杉)

### 具体的施策(2) 暮らしやすい住環境の整備

- ・適正な土地利用。水害地区に今尚新築の家ができていける如何なものか(女性ネ：庭木)
- ・武雄市は、常習水害の経験から地域住民の相互支援意識はかなり強い。災害に強いまちづくりのためには、ハード面の整備を強くお願いしたい。また、農地が荒廃し、治水機能が失われつつある。残すべき農地をゾーン化し、中山間直接支払地区のみならず、対象とならない地域についても、治水のあり方の検討が必要である。(農協：山口)

### 具体的施策(3) 地域の移動手段の確保

- ・水害、雪害時でも交通の機能を止めないようにしてほしい。(区長会：安藤)
- ・循環バス、みんなのバスについて、観光客の利用はコロナ禍で減ってであろうが、交通弱者にとっては、生活の足として、欠かせないものである。採算が取れないなど問題はあろうが、存続に向けた不断の努力をお願いしたい。また、バス停まで行くことが困難な方へのデマンド型のタクシー導入なども検討してほしい。デマンド型にしても複雑さが課題でもあるので、誰でも利用しやすい制度の検討をお願いしたい。(連合：武富)

## 6 自由意見

- ・新型コロナ対応、防災対応等、迅速かつ丁寧な情報発信について、大変、高く評価しています。引き続き、市民ニーズを踏まえた施策の推進に期待しています。(佐大：五十嵐)
- ・「それ、武雄が始めます。」キャッチコピーはいいが、市民のやってほしいこと、やりたいことの目的が広いので政策ばかり多くても市民に届いているのか疑問もある。(区長会：安藤)
- ・Facebookでの発信をされているが、Twitterのアカウントでの発信も行ってもいいのではないかと。また、ホームページの情報が検索しにくいので情報発信の仕方を見直し検討してもらいたい。(区長会：安藤)
- ・地元で学ぶ機会が多いのはいいことである。その場所が市役所に文化会館等が隣接する

ことで地元の高校生の学習の場、高齢者の学習の場を確保できるのではないか。市役所を開放することもいいが就業場所と学習の場との切り離しも必要と思う。市役所北の高架下の有効活用として庁舎内の会議室を一部移転し、市役所内の執務スペースを広く確保し職員同士の密を避けられないだろうか。(区長会：安藤)

- ・ワクチン接種の予約申し込みについて、ネット予約は予約枠など確実にわかり順調にとれたのがよかった。予約の仕方がわからない方に対して週末など支援ができる方がいればよかったのではないか。(区長会：安藤)
- ・R2年度については、何をもっても新型コロナウイルスの影響があらゆる分野に及んでおり、総合戦略の進捗状況を目標値と照らし合わせて検証するのは非常に難しいと感じた。第2期総合戦略の柱である「西九州のハブ都市の実現」も、基幹事業である「まちに開かれたスポーツ交流広場事業」も、今のコロナ禍が一定程度落ち着かない限り、実現に向けた舵取りは厳しいが、今は「我慢の時期」と捉え、今できる事業を地道にやっていくことが、今後に繋がっていくと期待する。(連合：武富)
- ・コロナ対策での、「米茶碗大作戦」はすごくよかった。食や器についてよく知ってもらい、食してもらい、家に帰ってからも長く使ってコミュニケーションもとれるとても素敵な企画でした。予算の関係もあるが、今回活用した素材などを使って経費削減ができるのではないか。今後も、可能であれば、続けてほしい。(ケ：小杉)
- ・総合戦略にあるとおり「公共のみが主体となるのではなく連携、協働」そのためにも総合戦略、市の方向性がもっと広く深く市民に知れ渡るようお願いしたい。(観光：江口)
- ・政策の柱「西九州のハブ都市」の実現に向けては、来秋の新幹線駅開業への市民の熱量がまだ足りていないように思える。市民参加型事業などを通じて意識の底上げが必要と思う。(観光：江口)
- ・多面にわたるコロナの影響をできるだけ早く集約検討し、各事業に反映させる必要があると思います。(観光：江口)

<武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI進捗状況調査>

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
基本目標 ① 仕事を創出し、所得を上げる	総論	新規求人数	8,237人 (H30年度)	9,000人 (R6年度)	商工観光課	
	具体的施策(1) 企業誘致の積極的な推進	企業誘致数	2社 (H30年度)	5社 (R2年度～R6年度)	企業立地課	・企業、学校誘致事業 ・新工業団地整備事業 ・企業誘致優遇制度 ・企業誘致促進特区事業
		立地協定締結企業の正社員雇用者数	11人 (R元年度)	50人 (R2年度～R6年度)	企業立地課	
	具体的施策(2) 中小企業支援、企業・創業等支援	創業支援相談件数	52件 (H30年度)	50件 (R6年度)	商工観光課	・特産品開発、販路開拓事業 ・創業支援事業 ・中小企業融資事業 ・商工業振興事業 ・商店街等空き店舗活用事業
		創業件数	4件 (H30年度)	15件 (R6年度)	商工観光課	・まちなみ創造事業 ・伝統産業支援事業 ・域外消費促進事業 ・地域雇用創造事業
	具体的施策(3) 就労支援、人材の確保・育成	市の協議会・審議会に占める女性の割合	33.3% (H30年度)	40% (R6年度)	男女参画課	・男女共同参画啓発事業
		就職件数	1,991件 (H30年度)	2,100件 (R6年度)	商工観光課	・就労相談会開催事業 ・就労マッチング事業 ・地域雇用創造事業
	具体的施策(4) 魅力ある農林業の振興	農業算出額	517千円 (H29年度)	540千円 (R6年度)	農林課	・新規農業者支援事業 ・6次産業推進事業 ・集落営農組織の経営発展事業
		有害鳥獣の農作物被害額	139万円 (H30年度)	120万円 (R5年度)	農林課	・特用林産物生産物拡大事業 ・園芸振興事業 ・畜産振興事業
		青年等就農計画数	5人 (R元年度)	15人 (R2～R6年度)	農林課	・有害鳥獣対策事業 ・お茶生産振興事業 ・新規作物産地化推進事業 ・地産地消推進事業 ・森林保全事業 ・特産品のブランド化事業 ・生産体制確立支援事業
認定農業者数		118人 (R元年度)	120人 (R6年度)	農林課	・里山資本再発見、創発事業 ・里山再生支援事業	

実績値				
R2年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
7,751人 (R元年度)				
0社 (R2年度)	・新工業団地整備事業 ・企業誘致事業 ・企業誘致優遇制度	・オフィス立地支援制度の創設 (オフィス立地促進補助金、オフィス環境整備費補助金)	・新工業団地の準備(R4.7) ・コロナ禍でできる誘致活動を実施 ・移住定住事業との連携	・R4.7より新工業団地の分譲開始 ・西九州のハブ都市としてオフィス誘致について注力する。
0人 (R2年度)				
66件 (R2年度)	・創業支援事業 ・商店街等空き店舗活用事業による事業所の新規創業による地域活性化及び雇用の創出		・創業塾など創業希望者への支援についての周知	
10件 (R2年度)	・創業支援事業 ・商店街等空き店舗活用事業による事業所の新規創業による地域活性化及び雇用の創出		・創業相談窓口訪問者や創業塾利用者に対するフォローアップ	
34.3 (R2年度)	啓発イベント実施、広報、HP等での啓発で男女共同参画意識の醸成		啓発活動の継続	34.4(R元年度)
1,857人 (R元年度)	武雄市地域雇用創造協議会による官民一体となった ・実践型地域雇用創造事業 ・自主事業 による市内雇用創出及びマッチング		事業への参加求職者や事業者を増やしきめ細かいマッチングを実施	ハローワーク年報により計上 例年6月頃計上
500千万円 (令和元年)	・県補助金、国庫補助金等を活用し、園芸作物や米麦大豆、畜産等に対する支援を行う。 (R2補助額(国県市計):277,358千円)		・農業者の高齢化による作付け面積の減少	
189万円 (R元年度)	・捕獲・防除等の対策を行うことにより、被害額を低減し、農家の生産意欲の維持を図る。 ・イノシシ捕獲頭数 2,066頭		・猟友会会員の高齢化による捕獲者の減少 ・侵入防止柵の適正な管理	
10人 (R2年度)	・新規就農者支援事業 ・若手農業者の確保・育成を図ること、地域や生産部会の担い手確保につながった。		・経営の早期安定を図るための支援強化	
117人 (R2年度)	・認定農業者支援事業(研修等) ・高齢化等の理由により減少傾向にあるため、後継者の確保に努めたい。		・認定基準(所得目標額)設定の見直し ・後継者確保のための支援策	

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
基本目標 ② 最高の 子育て・教 育環境を つくる	総論	若者人口率	13.7% (R元年度)	13.7% (R6年度)	企画政策課	
	具体的施策(1) 子育て・家庭支援	産後うつ病のリスクの高い母親の割合(EPDS9点以上)	9.7% (H30年度)	0% (R6年度)	健康課	<ul style="list-style-type: none"> <li>婚活支援事業</li> <li>不妊治療費助成事業</li> <li>妊婦健診事業</li> <li>乳幼児健診事業</li> <li>子育て世代包括支援センター事業</li> </ul>
		家庭児童相談件数	456人 (H30年度)	450人 (R6年度)	福祉課	<ul style="list-style-type: none"> <li>予防接種事業</li> <li>小児医療体制の充実事業</li> <li>子どもの医療費助成事業</li> <li>ひとり親・多子家庭支援事業</li> <li>子どもの発達支援事業</li> <li>子ども家庭総合支援拠点事業</li> <li>子育て家庭支援事業</li> <li>子育て総合支援センター事業</li> <li>病児病後児保育事業</li> <li>ファミリーサポート事業</li> <li>保育所・認定こども園整備事業</li> <li>延長保育事業</li> <li>一時預かり事業</li> <li>障害児保育事業</li> <li>実費徴収に伴う補給給付を行う事業(保育)</li> <li>放課後児童クラブ整備事業</li> <li>放課後児童健全育成事業</li> <li>放課後子ども教室事業</li> <li>子どもの貧困対策事業</li> <li>こども図書館事業</li> <li>公園整備事業</li> <li>定住環境整備事業</li> <li>定住特区補助金事業</li> <li>武雄競輪場整備事業</li> <li>福岡、長崎等通勤通学補助事業</li> </ul>
		病児・病後児保育利用者数	245人 (H30年度)	850人 (R6年度)	こども未来課	
		放課後児童クラブを利用した保護者の満足度	97% (H30年度)	98% (R6年度)	こども未来課	
		こどもの発達相談件数	延182人 (H30年度)	延216人 (R6年度)	福祉課	

実績値				
R2年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
13.7% (R2年度)				各年度12.31現在
14.5% (R2年度)	産後うつ病の早期発見・支援のために、出生届時に産後うつ病アンケートを渡し、産後2週間後の返信により産婦の状態を把握。		・基準値は、産後1か月でのアンケート返信としていたが、より早期より対応するため返信時期を早めた。 ・産前から産後目切れ目ない支援を行うため、助産師会に相談事業を委託して訪問指導による支援強化を図る。(R3より)	13.9% (R元年度)
463人 (R2年度)	<p>&lt;事業概要&gt; 虐待や不登校、育児放棄等の問題がある中、家庭における児童養育その他家庭児童福祉の向上を図るため、関係機関と連携しながら、相談及び指導に当たる。</p> <p>&lt;効果&gt; 県児童相談所や教育現場、警察等連携を図りながら支援に当たり、要保護児童とする対象ケースが減少したものの、新規に追加されたケースもある。</p>		令和3年度から支援体制を強化し「武雄市子ども家庭総合支援拠点」を設置。関係機関への周知を図り、情報共有することで、対象ケースのより良い支援につなげる。	500人 (R元年度)
267人 (R2年度)	(利用者内訳) 武雄市病児・病後児保育施設利用者 252人 嬉野市・江北町施設利用者 15人 ・コロナ禍であり、体調不良の際に自宅療養をされるケースが増えたため利用者が減った(R2)。 ・病気等で集団保育が困難な児童を、就労などにより家庭で保育できない保護者に代わって、病児・病後児保育施設において一時的に保育。保護者の子育て・就労の両立の支援を図った。		利用促進を図るため、事業の周知に努める。	422人 (R元年度)
96% (R2年度)	保護者が就労等で昼間家庭にいない児童に居場所を与えた。放課後及び長期休業中における、こどもの発達段階に応じたこどもの主体的な遊や生活を尊重し、育成支援を図った。		放課後児童クラブの人材確保・待機児童解消・支援員の資質向上等	97% (R元年度)
延216人 (R2年度)	健診や相談から、ことばの遅れや発達障害の疑いのある児に対し、専門の臨床心理士により相談・検査・指導を実施		保育園等施設、福祉課、学校教育課、療育施設等と連携し、支援継続の必要がある。	延202人 (R元年度)

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
具体的施策(2)子どもが主人公の教育環境整備		子どもの学習意欲向上度 (とても楽しみと少し楽しみを足した割合)	88% (R元年度)	90% (R6年度)	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT教育推進事業</li> <li>ALT活用事業</li> <li>不登校対策支援事業</li> <li>学校支援地域本部、コミュニティスクール事業</li> <li>部活動指導員活用事業</li> <li>新たな学校づくり推進事業</li> <li>放課後等補充学習事業</li> <li>小中学校の体験活動の充実事業</li> <li>高校生のまちづくり事業</li> <li>わんぱくスクール、ジュニアリーダー育成事業</li> <li>武雄市、雄武町児童交流団派遣事業</li> </ul>
		子どもの地域行事参加割合	71% (R元年度)	75% (R6年度)	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>青少年育成市民会議「たけおっ子“絆”プロジェクト！」事業</li> </ul>

実績値				
R2年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
88.3% (R2年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT教育推進事業によって、授業に主体的に取り組むようになった。</li> <li>研究指定校事業では、指定校を中心に新学習指導要領を踏まえた授業改善が進み、児童生徒が主体的に取り組むようになった。</li> <li>ALT活用事業では、ALTの配置増に伴い多文化に触れる機会が増えた。</li> <li>学校支援地域本部、コミュニティスクール事業では、地域ボランティアが学校と協働してコロナ禍の中でできる限り、地域や学校の実情、特色を活かした活動ができた。</li> <li>運動部活外部指導者招聘事業では、生徒の技術向上ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習用端末(1人1台)と電子黒板の更新</li> <li>オンライン授業授業の環境整備(ポケットwifiの整備)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援員やボランティア等の人的確保。</li> <li>不登校対策は多岐に渡るため関係部署との連携が必要。</li> </ul>	
59.6% (R2年度)	子どもたちに地域の行事への参加を周知していたが、コロナ禍で行事自体が中止になったり、参加控えがあった。			

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
基本目標 ③ 生きが いと健康 を実感で きるまちを つくる	総論	健康寿命	男性79.47歳 女性85.40歳 (H28年度) R元年度算定分	男性80.47歳 女性86.40歳 (R2年度) R6年度算定分	健康課	
	具体的施策(1)生きが いづくり推進	成人対象講座参 加者数	2,258人 (H30年度)	2,700人 (R6年度)	生涯学習 課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者大学助成事業</li> <li>・シルバー人材センター支援 事業</li> <li>・里山再生支援事業</li> <li>・武雄版里山資本再発見・創 発事業</li> <li>・公民館講座事業</li> <li>・公民館サークル活動支援事 業</li> </ul>
		高齢者大学参加 者数	134人 (H30年度)	200人 (R6年度)	生涯学習 課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人クラブ活動等事業</li> <li>・人権啓発活動推進事業</li> <li>・生活困窮者自立支援事業 (自立相談、家計改善、就労 準備支援)</li> <li>・男女共同参画推進委託事 業</li> </ul>
		生活困窮者自立 支援新規対応件 数	105人 (H30年度)	150人 (R6年度)	福祉課	
	具体的施策(2) 健康づくりの推進	国保の特定健診 率	51.4% (H30年度)	60% (R6年度)	健康課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康ポイント事業</li> <li>・国保の特定健診保健指導 事業</li> </ul>
		週3回以上朝食を 抜く人の数	10.9% (H30年度)	5% (R6年度)	健康課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん検診事業</li> <li>・さわやかスポーツクラブ事業</li> <li>・食生活改善推進協議会活 動事業</li> <li>・食を通じた健康づくり事業</li> </ul>
		メタボリックシンド ロームの該当者及 び予備軍の割合	30.1% (H30年度)	25% (R6年度)	健康課	
	具体的施策(3) 介護・高齢者福祉の 推進	認知症サポーター 登録者数	5,918人 (H30年度)	10,000人 (R6年度)	健康課	
		ふれあいいきいき サロン開設数	124箇所 (H30年度)	182箇所 (R6年度)	健康課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症対策事業</li> <li>・生活支援体制整備事業</li> <li>・在宅医療介護連携推進事 業</li> </ul>
		介護予防市民活 動グループ数	7箇所 (H30年度)	42箇所 (R6年度)	健康課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防事業</li> <li>・介護保険事業</li> <li>・在宅福祉事業</li> </ul>
		地域包括ケアシス テム構築のための 生活支援サポー ター登録者数	0人 (H30年度)	200人 (R6年度)	健康課	

実績値				
R2年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
男性79.75歳 女性85.98歳 (H29年度)				・国、県のデータが揃ってから 算定される
1,737人 (R2年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各町公民館において、手話講座や料 理教室、高齢者対象講座等を実施。 コロナの影響で、中止や回数減となっ た講座がある。</li> <li>・学習機会を提供し、市民の教養の向 上、健康の増進、生活文化の振興、社 会福祉の増進につながった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の要望に応じ た講座内容の充実が必要。</li> </ul>	2,368人(R元年度)
142人 (R2年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者大学(武雄市民大学)</li> <li>・高齢者の生涯学習の場を提供するこ とで、生きがいづくり、健康づくりにつ ながった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、高齢者の人口増 加に備え、さらなる受け 皿の確保が必要。</li> </ul>	155人(R元年度)
150人 (R2年度)	生活困窮者について、生活保護になる ことなく自立した生活を行うことに役立っ ている		様々な要因に対応しなが ら就労に向けた支援が必要	141人(R元年度) 武雄市社会福祉協議会 生活自立支援センターへ の委託事業
52.5% (R元年度)	武雄市国保40歳～74歳に対し、健診を 実施		受診率を目標値まで向上さ せ、保健指導の実施を強化 し、更なる健康増進と医療費 削減を目指す	41.4%(R2年度) ※速報値(確定10月頃)
35.3% (R2年度)	保健指導対象者に対し、結果説明会や 訪問による保健指導を実施。		メタボの改善率など保健 指導の効果の分析、それ に基づく効果的な保健指 導の実施	調査終了  65.7%(R元年度)
6,686人 (R2年度)	認知症についての正しい知識と理解を 持ち、手助けする認知症サポーターの 養成講座を実施		コロナ禍で養成講座の依 頼が減っているため、リ モートでの講座を実施し ていく。	6,521人(R元年度末)
134箇所 (R2年度)	住み慣れた地域での交流を通して、孤独感の解 消、健康維持、生活意欲の向上を図り、福祉コミュ ニティの形成を推進する。サロンで認知症について の相談に認知症地域支援推進員として対応され たり、サロンが地域の課題を吸い上げる場として機 能しているところも増えてきている。		参加者の高齢化による廃止。 コロナ禍で活動をしたくても できないサロンあり。 自主活動本来の意味、助成 金に頼らない活動へ思考の 転換を進めていく。	136箇所(R元年度)
20箇所 (R2年度)	自主グループに対して理学療法士等の 専門職が、定期的な体力測定や講話を 行うことで、モチベーションを維持し、活 動が継続できるよう支援する。		コロナ禍で自宅に引きこ もりがちになる高齢者が 多いため、感染対策を行 いながら、地域のサロン 新設を進めていく必要が ある。	17箇所(R元年度)  積み上げの数 100歳体操のG
73人 (R2年度)	地域住民同士の助け合いや支え合い の体制整備のため、研修の受講者に生 活支援サポーターとして登録してもら う。高齢者の社会参加及び生活支援や 介護予防の充実が図られる。		コロナ禍ではあるが、感 染予防対策を講じなが ら、研修を開催する。 制度内容の周知が必要 である。	0人(R元年度)

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
	具体的施策(4)障がい福祉の推進	障がい者(児)が自立した生活をするためのサービス利用者数	717人 (H30年度)	860人 (R6年度)	福祉課	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい福祉サービス事業</li> <li>自立支援医療費助成事業</li> <li>福祉タクシー助成事業</li> <li>特別障がい者手当等給付事業</li> </ul>
		就労している障がい者の数	659人 (H30年度)	670人 (R6年度)	福祉課	<ul style="list-style-type: none"> <li>重度心身障がい児福祉年金支給</li> <li>重度心身障がい者医療費助成事業</li> <li>地域生活支援事業</li> </ul>

実績値				
R2年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
768人 (R2年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいの程度や生活状況に合わせた福祉サービスの提供に取り組んだ。</li> <li>事業等の周知を含め、必要な障害福祉サービスに関わる支援を行った結果、利用者が増えた。</li> </ul>		障がいのある人のニーズや特性に応じた支援を既存の制度や事業などを適切に組み合わせて提供することが必要	769人(R元年度)
666人 (R2年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者の雇用状況の把握、事業所への意向調査、就職面接会の実施、障がい者雇用に関する啓発に取り組んだ。</li> <li>障がい者と事業者のマッチングを図ることで就労者数が増えた。</li> </ul>		障がい者雇用促進のためにも事業所側の理解が重要であり、少しでも理解してもらうような取り組みが必要。	671人(R元年度)

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
基本目標 ④ 人と人との交流が生まれ、心がつながるまちをつくる	総論	交流人口	194万人 (H30年度)	220万人 (R6年度)	商工観光課	
	具体的施策(1)国内・海外誘客	観光消費額	120億 (H30年度)	135億円 (R6年度)	商工観光課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新幹線活用プロジェクト事業</li> <li>・高架下等活用事業</li> <li>・武雄温泉駅前広場整備事業</li> <li>・ナイトタイムエコノミー事業</li> <li>・広域観光連携事業</li> <li>・地域資源を活用した観光客誘致事業</li> <li>・地域資源を活用したまちあるき事業</li> <li>・体験型ツーリズム事業</li> <li>・観光振興・PR事業</li> <li>・各地域のイベント支援事業</li> <li>・観光コンシェルジュ事業</li> <li>・武雄温泉楼門朝市事業</li> <li>・武雄温泉保養村資源活用事業</li> <li>・九州オルレコース整備事業</li> <li>・海外観光客受入整備事業</li> <li>・海外観光エージェント招聘事業</li> <li>・外国人観光受入環境整備事業 (Wi-fi整備、サイン多言語化、免税店設置など)</li> </ul>
		外国人観光客数	28,787人 (H30年度)	40,000人 (R6年度)	商工観光課	
	具体的施策(2)効果的な情報の発信	定住世帯数	19世帯 (H30年度)	35世帯 (R6年度)	ハブ都市・新幹線課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定住特区補助金、定住支援金事業</li> <li>・空き家、空き地バンク新規物件登録事業</li> <li>・定住環境整備事業</li> <li>・東京圏移住支援事業</li> </ul>
		WEB閲覧件数	1,553,537件 (H30年度)	2,000,000件 (R6年度)	広報課	・武雄ブランド事業
		スポーツ大会、合宿等の宿泊者数	2,147人 (H30年度)	3,000人 (R6年度)	スポーツ課	

実績値				
R2年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
176万人 (R元年)				
109億 (R元年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タケさんぼ朝日コース開設(地域資源活用) いつ?</li> <li>・九州インバウンドオンライン商談会参加</li> <li>・春まつり、秋祭り、灯ろう祭り支援</li> <li>・たけナビ(広域観光案内)</li> <li>・九州オルレ武雄コース維持管理、コース見直し、てくてくオルレ開催(オルレ活用)</li> <li>・観光客誘致対策助成(CV、修学旅行等のあっせん)</li> <li>・宿泊旅行商品造成助成(誘客あっせん)</li> <li>・観光客チャレンジ補助(日帰り旅行あっせん)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【R2年度実施】</li> <li>・コロナ禍における観光関連産業支援事業</li> <li>・武雄嬉野温泉1億円キャンペーン</li> <li>・武雄温泉お泊まり半額キャンペーン</li> <li>・GoTo武雄キャンペーン</li> <li>・たけお春旅キャンペーン</li> </ul>	新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、緊急事態宣言が発令されるなど、インバウンドはもとより、国内観光も自粛され、観光業は大きな影響を受けている。感染防止対策と経済支援の両面を考えた、新しい生活スタイルでの観光戦略が必要。	
27,900人 (R元年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなか公共空間デザイン調査研究(駅周辺の回遊性を高める公共空間活用に向けた調査)</li> <li>・ナイトタイムエコノミー社会実験実施</li> <li>・高架下活用社会実験</li> <li>・三市町連携事業(有田町、嬉野市)</li> <li>・外国人受入れ環境整備(サイン多言語化、多言語翻訳機導入、トイレ洋式化等)</li> </ul>			
33世帯 (R2年度)	・移住定住の促進を行い、地域の活性化を図る。	多拠点居住交流促進事業	定住世帯数を補助金の支給件数でカウントしており、予算が増えるほど、定住世帯件数は増えるものの、財政面でこれ以上の予算の増額は難しい。	31世帯(R1年度)
2,176,906件 (R2年度)	閲覧者目線にたった情報の作成を行うとともに、分かり易い導線を意識した情報配置を行った。また、市民の関心が高い新型コロナウイルス関連特設ページ、及びワクチン接種特設ページを設置し、タイムリーな情報提供を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス関連ページの設置</li> <li>・シティプロモーションサイトの再構築</li> <li>・新幹線特設ページの再構築(ハブ都市推進室)</li> </ul>	R6目標値を達成済	既に目標値を達成しているが、閲覧数増の要因として、新型コロナウイルス関連情報へのアクセス増が影響していると推察される。コロナ終息後、閲覧数が減少しないよう、コンテンツの更なる充実を図る必要がある。
293人 (R2年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光誘致助成事業による大会</li> <li>・市誘致事業(ラクロスフレッシュマンズキャンプ、近県交流寿スーパースター軟式野球選手権大会)はコロナの影響で未実施</li> </ul>		体育協会と連携した施設運用及び整備九州内の各種団体への周知	2,314人(R元年度)

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
	具体的施策(3) 文化・スポーツの振興	スポーツイベント等への参加人数	4,909人 (H30年度)	6,000人 (R6年度)	スポーツ課	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民のスポーツ参画事業</li> <li>スポーツ施設整備事業</li> <li>競輪場を活用したスポーツ活性化事業</li> <li>スポーツ大会、合宿等誘致事業</li> <li>プロチームの進出、誘致促進事業</li> <li>文化財保存活用事業</li> <li>歴史資料館企画展事業</li> <li>伝統芸能継承事業</li> <li>図書館事業</li> <li>自主文化事業</li> <li>公園活用促進事業</li> </ul>
		歴史資料館企画展への来場者数	30,000人 (H28～H30年度平均)	33,000人 (R6年度)	文化課	

実績値				
R2年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
1,127人 (R2年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育協会主催のイベント</li> <li>市主催イベント(健康・応援村、関西大学交流事業)はコロナの影響で未実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種団体が開催するイベントのサポート</li> <li>ICE-T(国際交流団体スポーツイベント支援)</li> <li>障害者スポーツ体験支援</li> <li>アクティブチャイルドプロ恨むによる運動不足解消の取り組み</li> </ul>	体育協会と連携した施設運用及び整備九州内の各種団体への周知	4,294人(R元年度)
17,266人 (R2年度)	○企画展内容 「水とともに生きる～武雄の災害と治水」 7/11～8/16 来館者5,953人 「二十歳になりました～武雄市図書館・歴史資料館20年のあゆみ～」 9/26～10/25 来館者4,520人 ○「武雄のキセキ 蘭学への挑戦～武雄鍋島家資料「長崎方控」「常用控」をひもとく～」 1/30～2/28 来館者6,793人	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史ウォーク</li> <li>「JRウォーキング 2020 秋編」連携事業歴史スタンプラリー</li> <li>「武雄蘭学でつくる未来」</li> </ul>	令和2年度は、新型コロナ感染対策で休館があったこと、館全体の来館者が3割減となったことから、来場数も減少した。令和3年度以降についても、新型コロナによる影響が予想されるが、小中学生の団体見学を依頼するなどして、来場者増を図る。	

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
	総論	人口の社会増減数	△96人 (H26～H30平均)	△48人 (R6年度)	市民課	
基本目標 ⑤ 災害に強く、安心して心豊かに暮らす環境をつくる	具体的施策(1) 災害に強いまちづくり	自主防災訓練実施団体数	10団体 (H30年度)	50団体 (R6年度)	防災・減災課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災情報発信システム構築事業</li> <li>・防災アプリ構築事業</li> <li>・自主防災組織支援事業</li> <li>・ハザードマップ整備事業</li> <li>・浸水予測システム構築事業</li> <li>・国土強靱化推進事業</li> <li>・がんばる地域応援事業</li> <li>・伝統芸能継承事業</li> <li>・CSO活動助成事業</li> <li>・対話の機会創出事業</li> <li>・国際交流事業</li> <li>・多文化共生のまちづくり事業</li> </ul>
		避難行動要支援者個別計画策定率	59% (H30年度)	100% (R6年度)	福祉課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニティ活性化事業</li> <li>・生涯学習まちづくり出前講座</li> <li>・市民協働活動促進事業</li> <li>・青少年育成市民会議「たけおっ子“絆”プロジェクト！」事業</li> </ul>
	具体的施策(2) 暮らしやすい住環境の整備	市道の改良率	76.8% (H29年度)	80.0% (R6年度)	建設課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の手続き利便向上事業</li> <li>・防災システム構築事業</li> <li>・汚水施設整備事業</li> <li>・下水道整備事業(汚水対策、雨水対策)</li> <li>・環境施策の推進事業</li> <li>・総合環境対策事業</li> <li>・廃棄物処理、減量等事業</li> <li>・都市計画道路整備事業</li> <li>・主要市道整備事業</li> <li>・一般市道整備事業</li> <li>・治水対策事業</li> <li>・空き家、空き地対策事業</li> <li>・中古住宅の流通促進事業</li> <li>・周辺部住宅整備事業</li> <li>・里山資本再発見、創発事業</li> <li>・里山再生支援事業</li> </ul>
		汚水処理人口普及率	66.7% (H30年度)	76.0% (R6年度)	下水道課	

実績値				
R2年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
△22人 (R2年度)				
30団体 (R2年度)	<p>訓練内訳 自主防災訓練 2団体 プッシュ型出前講座 28区</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練等 自主防災組織や消防団による訓練要支援者の避難支援</li> <li>・防災研修 AED使用による応急手当講習等</li> <li>・講話 自主防災組織、消防団、婦人会等への防災力向上に資する</li> </ul> <p>効果 自主防災組織、消防団、婦人会等の連携及び自主防災意識が向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難訓練等 ・避難所設置・設営支援 ・段ボールベット、間仕切りの作成支援</li> <li>○防災講話 防災、防火講話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ禍ため、予定していた自主防災組織との日程調整ができなかった。未実施の自主防災組織は次年度へ繰り越す。</li> </ul>	5団体(R元年度)
59.7% (R2年度)	<p>(事業概要) 避難支援体制の整備を行い、災害時の要支援者の避難誘導、安否確認等に活用。</p> <p>(効果) 名簿登録者のうち、同意を得ている者については、民生委員・消防等関係者にあらかじめ情報を提供し、平時より協力体制の整備を行っている。同意を得ていない者についても、台帳を整備し、有事の際は活用する。</p>	R2～R4までの3年間で名簿登録者のうち、本人から同意を得ているものに対し訪問調査を実施。【避難行動要支援者調査業務】	名簿登録者のうち不同意者へ同意の働きかけと、同意者の個別計画の精度を高める。	
69.53% (R元年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○下水道整備事業(汚水対策) 【公共下水道事業】 武雄町の一部を公共下水道処理区域とし、終末処理場の設置および管渠布設を行うことで汚水処理を促進し、生活環境の向上や水質保全を図る。</li> <li>○汚水施設整備事業 【市営浄化槽事業】 公共下水道処理区域以外の市内全域を対象に、市が管理する浄化槽を設置することで汚水処理を促進し、生活環境の向上や水質保全を図る。</li> </ul>		R01年度の目標値は68.4%であり、目標値を上回る結果となっている。今後も引き続き、計画的に整備推進を図る。	毎年3/31の値を、翌年度5月中旬頃までに集計している。
77.0% (R元年度)	<p>地域間を結ぶ幹線道路の整備及び局部改良を実施する。この整備により、道路幅員・交差点改良、歩道設置、視距改良等により地域の利便性・安全性の確保と道路環境の改善を図っていく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の利便性の向上と安全性の確保を図る。</li> <li>・交通事故の抑制</li> <li>・道路機能の安定した維持管理。</li> </ul>			

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
		空き家・空き地バンク登録数	16件 (H30年度)	20件 (R6年度)	ハブ都市・新幹線課	・公園活用促進事業
	具体的施策(3) 地域の移動手段の確保	循環バス・みんなのバス等の利用者数	26,247人 (H30年度)	27,000人 (R6年度)	企画政策課	・循環バス運行事業 ・生活交道路線維持事業 ・コミュニティバス等運行事業 ・廃止路線代替バス運行事業 ・地方バス路線運行事業 ・自家用有償運送等事業

実績値				
R2年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
13件 (R2年度)	空き家・空き地バンクの登録を推進し、定住促進による地域活性化を図る。			9件 (R元年度実績)
22,915人 (R2年度)	みんなのバス 4町 12路線 循環バス 2路線		新型コロナの影響で観光客の利用がほぼなく、学校の休校等があり利用者減となった。コミュニティバスは、エリア拡大を検討する必要がある。	25,408人 (R元年度)